

議事要旨

議事要旨

議題：第 2 回 エキサイトよこはま 22 懇談会

開催日時：平成 23 年 5 月 31 日（火） 17:00～19:00

場所：横浜ベイシェラトンホテル 5 階 日輪

出席者：名簿を参照

議事内容：下記参照

1. 開会（事務局よりご挨拶、会議趣旨の説明、新委員紹介）

2. 横浜市あいさつ

○横浜市 小松崎副市長

この会合は昨年発足し、皆さんの協力を頂き、計画の検討を進めて来たが、今日はその報告をさせて頂き、様々なご意見を賜りたい。

この一年間この構想に関し、大変大きな出来事が重なった。1 点目は西口駅ビル計画が具体化し、今環境アセスメント等の手続きに入っていること。2 点目は国でも大きな動きがあり、先日、都市再生特別措置法が改正されたこと。国の施策を、是非横浜駅を中心とした都心部の活性に上手く活用していきたい。3 点目は、大変残念なことだが、3 月 11 日に起きた東日本大震災により、東北地方の大きな被災はもとより、横浜市においても、これからこの都市づくりという面で大変大きな課題が浮き彫りになった。液状化現象の他、津波についてはこれまでの想定を越える形で起きた。卑近な例では、駅を中心に大規模な帰宅困難者が発生した。また、古くて新しい課題であるが、まだまだ耐震構造を満たしていない古い建物がこの地区にはたくさん残っている。エキサイトよこはま 22 の大きな構想の一つに防災ということを掲げているが、今回の震災を踏まえて新たにこの計画に反映させていく要素が増えた。

この懇談会は大変大きく、プレーヤーが多いので、一つにまとめていくことはなかなか難しいが、個々の個性を活かし、横浜駅全体の活性化に繋がるようなチームプレーに昇華させてていきたい。幸い非常に優秀な講師陣として小林先生、岸井先生に全体像を見て頂き、UR 都市機構、国、県を始め様々な方に多大なるご協力を頂いている。是非、将来この横浜駅周辺地区を魅力ある良い街にしていこうというこの 1 点において皆様のご協力を頂きたく。

3. 議題 資料説明（事務局）

(1) 各検討会等からの報告

- | | |
|--------------------|--------|
| ①各検討会等の開催状況報告 | 【資料 1】 |
| ②基盤整備検討会からの報告 | 【資料 2】 |
| ③ガイドライン検討会からの報告 | 【資料 3】 |
| ④まちづくり活動組織準備会からの報告 | 【資料 4】 |

(2) 3月 11 日 東日本大震災時における状況報告と今後の課題について 【資料 5】

(3) 今後の取組みについて

- | | |
|-----------------------|--------|
| ①今後の進め方について | 【資料 6】 |
| ②まちづくりの戦略の実現に向けて | 【資料 7】 |
| ③平成 23 年度 推進・検討体制について | 【資料 8】 |

4. 意見交換

○及川委員

横浜駅周辺での駅前広場再編、駐車場の連携、防災インフラの整備等は、街の機能・魅力を左右する課題と考えている。課題をうまく処理するためには、行政を始め多くの関係する皆様の現実を踏まえた理解と協力が必要である。今後とも横浜市のリーダーシップに期待している。地元の西口振興協議会として検討会、部会に積極的に参加して参りたい。横浜を訪れるお客様とお客様を迎える私達にもホスピタリティの基本である安心安全を実感できるような環境創造ができればと考えている。

平成 16 年台風 22 号による浸水があったとおり、治水対策が喫緊の課題であり、基盤整備検討会におけるインフラ基本イメージ図の作成にあたっては、国際都市横浜の玄関口として、津波などに対する治水対策が必要条件である。

インフラ基本計画の実現は長期にわたる大事業だが、一日も早い完成のため皆で努力していきたい。微力ながら西口振興協議会としても協力して参りたい。

○稻本委員

歩行者ネットワーク、駅前広場の再編、防災について、行政の指導によって公と民の連携を図って実現できればと思っている。

西口駅前広場の再編については、まだまだ議論の余地があると考えている。駅前広場という限られた空間の中で来街者のため、より効率的で利便性の高い再編整備をお願いした

議事要旨

い。エキサイトよこはま 22 のリーディングプロジェクトである西口駅ビル計画が始まろうとしているが、横浜シアルが 3 月末をもって営業を終了して以降、閉館による影響が出てきていると感じている。横浜駅の顔でもあるのでイメージアップに繋がるような取組みを関係者にお願いしたい。来街者が西口を利用しやすいようにして欲しい。微力ではあるが西口振興協議会も協力して参りたい。

○小谷委員

震災により企業の業績回復にブレーキがかかり、経済の不透明さが増している。横浜市には十分な震災対応をお願いしたい。

横浜駅東口振興協議会は、崎陽軒、横浜スカイビルなど現在 17 社により構成され、横浜駅東口地区の振興、活性化を目的として様々な企業活動を展開している。当協議会はエキサイトよこはま 22 の関連会議に参加し、事業者の立場から意見を述べさせていただいている。東口は横浜駅周辺地区、みなとみらい 21 中央地区、ポートサイド地区を有機的に結びつける結節点として大きな役割を担っている。日産自動車本社ビル、富士ゼロックス研究施設が相次いで開業、今後、三井不動産のテナントビルが開業することにより更にポテンシャルが高まる。来街者への利便性を向上させ街の価値を高めるためには、横浜駅周辺地区、みなとみらい 21 中央地区、ポートサイド地区のアクセス向上が極めて重要で、計画を進める上で横浜市にリーダーシップを発揮していただき、民間事業者が計画に積極的に参加していくためにも、周辺道路整備や、西口と東口を結ぶ歩行者動線の整備、東口周辺地区における歩行者ネットワークの整備など東口におけるインフラ整備を早期に実現して頂きたい。

○遠藤委員

東京湾には津波が来ないという誤った認識があったため、これまで津波に対する対策は無防備であった。しかし 1703 年元禄時代に千葉沖で地震があり、横浜に 3m の津波が来た記録がある。

防災面に力を入れ、体制を作るということが大事だが、地震は 1 カ月後、3 カ月後来るかもしれないため、お金のかかるハード整備ばかりに時間がかかってしまっては意味がないので、ハードとソフトを分けて考えることをお願いしたい。臨港パークが広域避難場所に設定されているが、津波が来ることを考えると適切ではない。津波が来たときにどこに避難するかといったソフト面の対応については早期に検討していただきたい。

○野並委員

昭和 30 年代の写真を見ると、横浜駅東口を通る国道 1 号は上下線共に渋滞している。東西を結ぶ幹線が国道 1 号しかなかったためである。東口は通過交通のためのスペースにならざるを得なかった。現在の東口は、駅利用者のためのスペースが限られている。車で東京方面から横浜駅東口に行こうとすると、東口を通過して、U ターンして入ってこなければならない。右側車線にいるといつの間にか高速道路に入ったり、トンネルを潜って戸部署の方に向かったりと、道順を教えるのも難しかったが、MM の臨港幹線やベイブリッジであるとか、通過交通のための道路ができ、ようやく横浜駅東口が利用者にとって有効に使える状況が整ってきた。計画図によると東口駅前に交差点ができる計画とのことで素晴らしいと思う。交差点を基点に東口を駅利用者のためのスペースとして計画して頂きたい。

○林（康）委員

3 点あり、1 点目は横浜駅西口駅ビル計画では横浜市を始めとする関係者のご指導により、昨年環境アセスメントの方法書の提出等を行い、現在その手続きが進んでいる。駅ビルがすでに閉館しており、今後の計画をしっかりと進めていきたい。

2 点目は、3 月 11 日の東日本大震災を受け、帰宅困難者対策としての避難空間の確保、備蓄関係などの課題があるので、国の動向を見ながら官民の分担の方法など、いろいろとご指導頂きたい。民間事業者としてできることに限界はあると思うが、社会的責任を果たすよう積極的に参加していきたい。

3 点目は、東口の開発に関連して、河川改修、鉄道橋梁架け替え計画の方向性を出していく中では、まちづくりとの関係も考えていくべきである。まちづくりの中だけでは解決できないこともあると思う。さらに今回、津波対策も加わってきているため、ハード対策は大変な事業になると思うが、避けては通れないと思う。その議論をそろそろ整理する必要があるので、ご指導頂きたい。

○山崎委員

西口駅ビル計画については、環境アセスメント手続きを着実に進めていきたい。エキサイトよこはま 22 は、横浜駅周辺の将来を担う大きなプロジェクトであり、民間投資を呼び込みまちを作り変えて行くという大きな流れの中で、成し遂げられるものだと思っている。民間投資を呼び込むためには基盤を作りつつ、民間も役割を果たして官民一

議事要旨

緒に取り組んでいくことが必要である。計画の具体化のプロセスでは、法や条例との適合が必要であるが、行政には、官民協力しながら民間投資を呼び込み一緒にまちを作っていくものという視点で応援していただきたい。

また、東日本大震災を受けて大きな価値観の転換が起こっている。CO2 等の環境問題に加え、今後は、防災面や電気を使わないまちづくりといった価値観を取り込んだ計画にしなければならないと感じている。地震の後、駅を中心に帰宅困難者が溢れたが、この対策については、鉄道事業者、まち、行政が一緒になって取り組む協力関係を作りたいと思う。

○渡邊委員

横浜駅西口で、東急ホテルと、東急ストアのホテル下の部分を閉店し、JR と協議しながら共同建替えの検討を進めている。

東日本大震災時には、鉄道で終夜運転を行ったほか、ホテルや百貨店のトイレを開放し、ロビーで寝泊りされた方もいらした。しかし、1 企業での対応には限界がある。地域全体で情報伝達や連携が取れるよう、防災の観点でもタウンマネージメントのような大きな仕組みが必要であると思う。

地域間・国際競争において、一つひとつの建物の魅力だけでは限界があるので、まち全体の総合的な魅力作りのため、エキサイトよこはま 22 のような組織があると思っている。特に災害時の備蓄などについてはハードウェアより、オペレーションやソフトとしての横の連携が重要だと思っているので、防災面でも行政にリーダーシップを取ってご指導頂き連携できればと思っている。

○泉委員

東急東横線は地下に乗り入れているが、駅構想図のイメージによると、歩行者の動線は駅上が中心だが、2012 年度には東急東横線と副都心線が相互直通し埼玉方面の西武池袋線と東武東上線にもつながる。都心からお客様を運び、観光やビジネスの人を運ぶ立場になるが、そのときに地下と地上との連携が懸念される。

ターミナルコアは地上地下を円滑に結ぶことがあるが、これがどのように実現されるのかということに大きな関心がある。

街全体が地下も含めて使いやすく魅力あるものになるように、埼玉方面からのお客様のことも含めて、検討して頂ければと思う。

○原田委員

駅構想図のイメージの悠々回遊リンクと防災の観点からの 2 点発言する。

駅構想図によると、悠々回遊リンクの第一弾として西口駅ビル計画により、線路上空にも新しいビルが形成される。今後の街全体の回遊リンクの基準となるものが今回の開発でスタートするが、ターミナルコアとの関係や、南北の回遊など全体と周辺をどうつくるのか、将来を見据えた形成を検討して頂きたいと思う。

京急線に関連して、みなみ通路とのアクセス強化や南口開発のバリアフリー化が挙げられている。横浜駅へのアクセスや、みなとみらい 21 地区への玄関口として、みなみ通路、みなみのターミナルコアが非常に重要である。全体の回遊リンクと周辺の結びつきという視点がこれから重要である。

資料 2-2 に帷子川橋梁の京急線の写真があるが、震災時に駅間で 27 本の電車が止まり、そのうちの 1 本がこの周辺に止まった。当然帷子川の位置的要因、浸水的可能性を考え、この電車の避難誘導をまず一番先に考えた。インフラ基本計画に挙げられている浸水対策は概ね 10 年で整備ということになっているが、早めにやっていかなければ大きな課題となる。

国際的に認められるような災害に対する安全性の高いまちづくりをしていることは、セールスポイントになるので、取り組むべきと考える。

○今井委員

昨年 10 月に羽田空港国際線ターミナル駅を開業し、横浜と国際化した羽田空港とのアクセスが強化され、横浜駅は当社の事業戦力上ますます重要となっている。

横浜という都市にとっても、国際化への積極的な取り組みは横浜駅という交通拠点機能強化だけでなく、横浜という都市ブランドの強化になるとを考えている。横浜という都市の国際化、活性化を図るためにも基盤整備を中心・長期的に議論するということと合わせて、民間の事業者が日々の運営を通じて、まちづくり活動に積極的に取り組むことも大変重要なと考えている。

防犯パトロールの強化、草の根的な活動を通じて地域の課題について共通認識を持ち、地域の基盤整備に反映させていくことが重要と思う。

東日本大震災においては、地域防災、安心安全に関して、海外からも注目されている。これらの課題についても行政と民間事業者が組織的に取り組むことが重要で、積極的な

議事要旨

進捗をお願いしたい。

○林(英)委員

3 点申し上げたい。1 点目は、悠々回遊リンクは、西口と東口の歩行者利便性の向上、人の行き来の活発化、商業の活性化につながるだけでなく、防災の観点、歩行者ネットワークという避難経路の確保としても重要なので、南デッキについても具体的な検討を是非行ってほしい。

2 点目は、西口地区の再開発プロジェクトについては相鉄グループも注力していくが民間企業だけではできないインフラの整備については横浜市にリーダーシップを取って貰いたい。特に治水対策については、横浜駅周辺地区に安心してお客様に来訪して頂くためにも、是非優先すべき課題であり、国・県、各行政機関と共同して検討していかなければならぬ。地元の意向を盛り込んで頂いた中で、横浜駅周辺地区全体のマスタープランを横浜市に提示してもらいたい。

3 点目は、エキサイトよこはま 22 の議論はどちらかというと駅直近の開発の関連が多く議論されてきたと思うが、横浜駅周辺地区全体の発展のため、周辺地区的ポートサイド地区、鶴屋町地区、北幸、南幸またその後背地域と駅直近部との連携などの議論を深めていく必要があると思う。今年度以降はさらにこのような議論を活発にしていただきたい。

○長谷川委員

相鉄の横浜駅はエキサイトよこはま 22 により大きく生まれ変わると最大のチャンスを頂くことができたと思っている。様々な計画の中で、より利便性の高い駅とすることは勿論のこと、快適な乗換えの動線の実現、線路上空デッキとの接続強化、また、駅としての公共貢献のあり方について積極的に参画していきたいと考えている。様々な制度、メニューがあるが、関係者の皆様に知恵を頂きよりよい駅を実現していきたいと考えている。

○中山（博）委員

懇談会とは意見交換して議論するものである。エキサイトよこはまの最上部機関と位置づけられる。しかし年に一回しか開催されない上、各出席者の発言は 2 分間しかない。

エキサイトよこはま 22 は、学識経験者、地元横浜駅西口振興協議会、横浜駅東口振興協議会、他に鉄道事業者、神奈川県、国土交通省、横浜市、独立行政法人都市再生機構、だけで策定された。街づくり関係者や自治会は策定のためのメンバーに入っていなかった

議事要旨

ので、傍聴人として傍聴してきた。平成 21 年の 12 月にエキサイトよこはま 22 が策定された。まちづくりガイドライン 25 ページには、人の回遊通路としてペデストリアンデッキが書かれている。これは軽い橋であり、線路上の建物ではない。たくさん的人が公共的な広場から広場へ、24 時間行き来できる図である。その 2 カ月後、駅の上に建物が建った計画図が出てきた。我々は聞いていなかった。年に一回しか開催されない懇談会では、出てきた計画について発言する機会がない。幸いにして私はガイドライン検討会に委員として 3 回出席し、意見することができたが、検討会での議論が今回の懇談会に反映されているとは思えない。

JR さんは、民間投資を呼び込みつつ、駅の活性化、街の活性化を目指すと発言されていたが、もちろんである。ところがその後、細部について色々法律条例で縛られて非常にやりにくいと申されていた。私達はセットバック等により河川沿いの空間を新たに創出するため、一番長い距離、15 m のセットバックを拠出する計画になっている。あなた方は現行建物の 4 倍の容積率の建物を作ろうとしているが、公的空間としてのセットバックは、たった 1~2m しかしない。ヒートアイランド現象の中で、今の 6 倍の高さの建物をつくって、海の風が来ますか。帷子川沿いから風がくるというが、我々が風の道を作らなければ来ない。3 月 11 日の震災は未曾有という言葉では片付けられない。鉄道の安全を考える上で、鉄道の上に重たい建物を作るとは何事であるか。まして 3 月 11 日の地震はマグニチュード 9、国が想定しているマグニチュード 7.2 は不十分である。これで国際都市の玄関口と言えるのか。景観が良くなるか。空間が良くなるか。民間企業だったら我々民間と同じ公的空間を出して下さい。元はといえば国鉄で国民の資産だ。鉄道に乗る人はすべてお客様である。しかし 3 月 11 日の大震災の時は、乗客を追い出した。なぜ休み場所を作らなかったのか。私どもはたくさんの人を受け入れた。これが街である。もう少し街全体のことを考えてほしい。あなた方のお客様は全部横浜市民である。よろしくお願いします。

○大屋委員

資料 2-2 「親水」のところだが、「セットバック等により創出される新たな河川沿いの空間」について、「地区の特性に応じて親水拠点や新たな遊歩道を整備」と書いてあるがあまり快く思っていない。本日の資料にはない別の話として、船着場設置についての説明が 1 ヶ月前があり、平成 23 年度水面活動拠点、南幸橋左岸設置イメージというものを貰ったが、当準備組合では、抗議文を作っているところで、市長宛に抗議をすることは決定している。3.11 の震災を受けての対応とはほど遠いことと思うので、もう一度考えて頂きたい。

○倉知委員

鶴屋地区に関連して、鶴屋橋の架替えの取り組みや、横浜駅周辺地区に鶴屋地区を組み込んで頂けていることは喜んでいる。

資料 7 の優先的取り組みとして、「世界に信頼される横浜都心の災害安全性の強化」、「国内外に選ばれる横浜独自の国際競争力の強化」が二点挙げられているが、街の代表者として横浜駅が良くなることには協力したい。

横浜駅に着いてほっとするという方がたくさんいる、そのような横浜駅の良さを継続して頂きたい。住んでいる方、働いている方、買い物に来る方の視点をエキサイトよこはま 22 の中に盛り込んで貰いたい。市民の方、業者の方、住んでいる方は大きな期待を持っている。期待に答えるべく、まちづくりに協力していきたい。会の目的である魅力のある良い街にするということに同感である。

○中山（久）委員

計画地は、(仮称) 横浜駅西口駅ビル計画の鶴屋町側に隣接する、0.6ha あまりの区域で、エキサイトよこはま 22 の構想を取り込んだ初めての市街地再開発事業を目指し、昨年の 5 月に再開発準備組合を設立した。歩行者ネットワークの機能強化、都市のアメニティ機能の強化を目指しているが、3 月 11 日の大震災を受けて都市防災の機能分担を図ることで安心安全なまちづくりに貢献したい。西口駅ビル計画や鶴屋橋の整備に追随してまちづくりに寄与したい。

生まれて 63 年間ずっと横浜で、横浜を愛する気持ちは人一倍である。エキサイトよこはま 22 の第一ステージ、第二ステージを併せると 30 年近くの期間になるが見届けたい。皆様の意見を当地区の活動に活かしていきたい。

○宮崎委員

東日本大震災は大変ショックなことであった。事業の継続性といったことについて考えさせられた。ハードの問題だけでなく、電力等のインフラがこんなに脆いのかということ、また普段の生活を見直す、改善するということにまで影響が及んだ。国際都市を目指すという中で、外国の企業が安全な場所にすぐ拠点を移したということもあった。

今回さらに今後のアクションプログラムを導くため、東日本大震災を踏まえ、どうやってハードとして強化するかということと、環境面も特定都市再生の目標に絡んでいる。防

議事要旨

災では、普段使っているスペースが非常時にも役立つことが重要であり、抜けられる、安心して溜まることができる広場や回遊性のある歩行者ネットワークの整備が重要と言える。緑化についても防災に役立つものもあるのではと認識している。

2 年間でインフラ基本計画、ガイドラインを作ることになるが、後半に控えるアクションプログラムが一番中身を詰めるということで大変かと思う。一地権者として積極的に参画させて頂きし、横浜市のリーダーシップに期待している。

○澤委員

鶴屋町に住んでいる地元の意見として横浜駅ビルと東急ホテルの工事が、エキサイトよこはま 22 の趣旨にそって魅力のある商業オフィスを目指すということで、完成を楽しみにしている。

鶴屋町地区に大規模な駐車場ができ、駐車場と駅とをつなぐ通路もできるということ、反町地区とをつなぐ東横線跡地のフランジ道が完成し、歩行者が増えることは地元としても喜ばしいことであるが、来街者が増えると、防犯面が心配である。鶴屋町に交番を誘致してはどうかという意見もある。この機会を利用して皆さん之力をお借りしたい。

東日本大震災の帰宅困難者対策についてだが、震災当日、避難所に指定されている防災センターを見に行ったところ、避難されている人が多かった。近所の床屋さんでも店舗を開放しており、狭いところに 10 人ほど休んでいた。帰宅支援検討部会では災害時に事故の無いように帰宅して頂くことを前提とした検討を行っていたが、考え方を変えて、帰宅をさせないような方策もしてはどうかということを帰宅支援検討部会で提言して行きたい。

○斎藤委員

横浜駅西口駅前広場について、資料 2-1 「インフラ基本計画の方向性」にある路線バス乗降場集約化、タクシー乗り場の分散配置とあるが、西口駅前広場はゆとりある空間としてアメニティースペース、緊急避難場所として確保するべきだ。路線バス乗降場は西口駅前広場以外とするべきだ。西区の第五地区は横浜駅周辺が生活圏であるが、現状生活空間が極めて狭く、憩いの空間を渴望している。現状駅西口は通行往来者がひしめいているが、これは歩行者動線が悪いこと、バス、タクシーの乗降場が駅最寄りにあるためである。資料 3-1 景観デザインコンセプトでは「不整形な街区で構成された密集市街地において、整形でまとまりのある駅前広場は開放感を感じられる空間形成が求められる」とある。従って資料 2-1 と資料 3-1 は整合性が無い。路線バス、タクシーの乗降場について個別の協議を求

議事要旨

めたい。

資料 3 の防災分野について横浜市は巨大地震に対し横浜駅周辺の一時避難場所として、沢渡中央公園、岡野公園を指定している。震災当日、大勢の帰宅困難者が岡野公園に誘導され避難してきた。岡野公園はエキサイトよこはま 22 の対象エリア外であるが、横浜駅から近く、現実一時避難場所に指定され、3 月 11 日も避難者を受け入れている。今後の巨大地震に備え避難者の安全確保の面からも岡野公園に、沢渡中央公園と同等のハード面ソフト面の機能を持たせて貰いたい。

○網倉委員

横浜駅周辺地区における治水対策として、帷子川については現在河口部の改修を進めている。今後概ね 10 年間で完成させることを目標としている。先ほどから委員の皆様からは東日本大震災を踏まえ、地震防災に対して、中でも津波対策が大変心配とのご意見を頂いた。私どもの方にも、県民、市民の方から県内の横浜市、川崎市の津波対策が大変心配であるとの声が寄せられている。県では津波に対し、技術的な見地から津波の規模、想定の範囲について再検証を行うことを目的とし、学識経験者等から構成される、津波浸水想定検討部会を立ち上げ、今月 13 日に第 1 回を開催した。県としてもエキサイトよこはま 22 の実現に向け横浜市と協力してしっかりと取り組んで行きたい。

○岡田委員

具体的な計画が神奈川区から進むことになり、力を入れて区政を推進していきたい。行政の方としても、震災対策の見直しを行っており、色々お話をあったがオペレーションの運用を含め、神奈川区として検討していきたい。計画想定期間が、30 年と長いのでインフラ整備の状況、開発の熟度に応じた減災対策を考える必要があると思っている。

○芳賀委員

先ほどの事務局の報告を補足すると、西区では、以前から帰宅困難者対策について課題として取り組んできた。結果からいうと、震災当日は停電が無かったこと、帰宅困難者がピークに達した頃から相鉄線、みなとみらい線が運転再開したためになんとか対応できたが、今後はこれ以上の最悪な事態も想定されるので、横浜駅周辺の混乱防止対策会議の中で、今回の経験を踏まえ、最悪の事態を想定した対策を整えていく必要があると思っている。

議事要旨

3 月 11 日はパシフィコ横浜が帰宅困難者のメインの受入れ先になったが、事業者の皆様もそれぞれ臨機応変に帰宅困難者を受け入れていただいたことが大きな力になった。大きな事業者様だけでなく、それぞれ街を構成している皆様方が、臨機応変に動いたその成果だったと思う。是非この経験を活かし、帰宅困難者対策の充実を図るべく発言していきたい。

3 月末に横浜シアルが閉館して駅前が暗くなつた。震災後の節電の取り組みもあり、横浜駅西口は正直寂しい状態である。これから工事期間として想定される 8 年、10 年の間、街が創られていくプロセスを楽しめるような工夫を事業者に検討頂き、これからも賑やかで活気ある街であるよう一工夫お願いしたい。

○オブザーバー 国土交通省 菊池氏（渡邊氏代理）

2 点ある。1 点目は東日本大震災のこと。今後の津波の被害への対応として重要なことは、まちづくり側で津波にどう対応するか、ということ。その対応について、現在被災状況を見ながら整理しており、対策を検討していきたい。

2 点目は、本国会で成立した都市再生特別措置法について。これから関係する政令や基準を設け、施策の推進に取り組むこととしており、引き続き皆様と国際競争力の向上に努めていきたい。

○オブザーバー 国土交通省 入江氏

津波対策について今の取り組み状況を紹介する。土木学会の津波特定テーマ委員会が今月 10 日に第一回の報告をした。その中で今回の津波は 500 年ないしは 1000 年に一度の確率の津波で、対策については二段階で考えなければならないとしている。レベル 1 は数十年から百数十年に起ころる津波で、これは構造物で対応する。今回のような数百年から千年に一回の津波とされる、レベル 2 の津波は、構造物だけの対応では無理で、まちづくりやソフトと合わせ、命だけは守るという対策が必要という基本的な考え方が報告された。今後さらに検討し、9 月中旬に最終報告を行う予定。また、内閣府の中央防災会議は、5 月 28 日に第一回の専門調査会を開き、各地の地震被害想定や震災対策を抜本的に見直し、秋頃に結論を出す予定。国土交通省としても、まちづくりと合わせ、対策の検討を行い、土木学会、中央防災会議の状況を見ながら、神奈川県、横浜市等とも調整を図り対策を進めしていくことになる。

議事要旨

○オブザーバー 国土交通省 川口氏

2 点あり、1 点目は今回のエキサイトよこはま 22 のプロジェクトの中で鉄道を含む全体の利便性の向上について。駅機能高度化推進室では乗継ぎ利便性あるいは駅の機能の高度化という機能の向上というプロジェクトの支援をしている。横浜駅は乗降者数が多く、鉄道も合計 6 社乗り入れており、駅とその周辺を訪れる利用者、6 社間の乗り継ぎ利便性、バリアフリー化の推進などの基盤整備を行い、利便性を高めることが重要と考える。鉄道の外ではデッキ等の連携が大事と考えている。より良いプロジェクトとして利用者が分かりやすいような動線になっているが重要で、出来る範囲で協力したい。

2 点目は、安心安全の形成、特に防災対策の充実について。東日本大震災の発生と被害の影響について、関係各局や自治体で色々な検討を始めている。鉄道の運行について、地震で鉄道が止まり、運行再開まで時間がかかったことから、その状況調査を行なっている。また、津波の被害では仙台空港連絡鉄道の駅が水没してしまい、津波が発生した場合の首都圏の地下鉄の浸水対策について現状の調査、対策の検討も行っている。鉄道の中で出来る部分はしっかりとやるが、情報連絡、警察との連携など鉄道だけでは解決出来ない課題も含め、今検討しているところである。エキサイトよこはま 22 では、治水対策、防災インフラ機能の向上、帰宅困難者対応を含めた地域防災機能の強化について検討されているが、これに対して可能なものがいれば協力していきたい。

関係者が多く、調整が大変かと思うが、それを乗り越えてさらなる発展を期待している。

○小林教授

ガイドライン検討会と、まちづくり活動組織について、2 点申し上げたい。

ガイドライン検討会では、議論・検討し、ガイドラインを作り替えていくことをベースに考えてきた。昨年度議論した中身を今年度のガイドラインの中に反映していきたい。ガイドラインは元々、横浜駅周辺地区全体にかかるまちづくりの方針なので、本日この場にいる方以外にも多くの権利者がいるので、そろそろここに来ていない人たちへの周知、情報発信をする時期に来ている。

まちづくり活動組織準備会については「準備会」を取り、運営していただきたい。今回の大震災を考えるとまちづくり活動組織のようにソフトのことを考え活動する部署は必要である。防災は限界があるので、命が救われる減災という考え方方が大切で、災害を少なくする減災を考えていきたい。

○岸井教授

資料 7 にあるようにプロジェクト全体の思想は、横浜駅周辺は国際的にも価値のある土地であるため、横浜駅周辺を元気にして、東京大都市圏をさらに元気にする、ということである。その意味で東日本大震災の問題は大変大きい。世界の人がどう思っているか、横浜も東北も同じであろうという感じを持たれている方も多いので、我々としては横浜の安全性を含めた PR をもっとやらなければならない。ハードのみならず、横浜としての資質について上手な宣伝をしなければならないと思う。

それと共に実際に被災をしないようなハード整備を行うためには、最も危ないところを考えることが大切。今回の震災は金曜日の昼間に起きたが、発生の時期が最悪かどうかは判断しなければならない。ここから学んだことを本当に危険な時に役立たせなければならない。

地下街は震災に対してのリスクが大きい。一つの組織だけで対策を講じるのではなく、関係者間で連携を図らなければ防災とならない。引き続き協力しあい、早急にソフトの対策を行わなければならない。

○小松崎座長

予定では、皆様から頂いた意見について事務局から必要なコメントをする予定だったが、時間が過ぎてしまったので、別途、事務局が個々の方を訪ね個別に対応させて頂きたい。

○中田局長

委員の皆様には日頃から横浜駅周辺のまちづくりについて熱心にご支援頂きありがとうございます。まちづくりに対する気持ちが前向きだと感じた。これからも災害に対する安全性、国際競争力の強化をキーワードとしてまちづくりに取り組んでいきたい。

西口駅ビル計画が動き出し、今年度から鶴屋橋の架替えに向けた設計の発注の段階に入る。具体的な横浜市としての取り組みも始まる。現実のものとして一歩一歩まちづくりが進んでいく。

震災を受け、電力不足への対応を考えなければならない。環境への配慮と合わせた検討が求められる。そういったことを踏まえ、それぞれの部会の中で検討して頂く。

本日いただいた各委員のご意見、ご要望を反映させ検討を進めていきたい。今後引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ致します。